

5月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
いちご類	2,308	112	2,360	823	109	786	1	0.0	栃木、福岡、佐賀、静岡産中心の入荷。今年は柑橘類が少なく、いちごに期待高まっている。2、3月の天候回復もあり、総入荷量は前年を上回ると見込まれる。また寒暖の差も激しく品質が良くなっていることが評価され、価格も前年を上回ると見込まれる。
びわ	139	大幅減	159	1,622	98	1,500	-	0.0	長崎、千葉産中心の入荷。主力の長崎産は1月の寒波により壊滅に近い被害をうけている。連休明けから露地物が始まるが、例年並みの増量は期待できず、品薄感が強まるだろう。千葉産も露地物は生産減が見込まれており、総入荷量は前年を大きく下回る。出回り量が非常に少なくなり、存在感が薄れることから、価格の高騰はないと予想される。
おうとう	76	105	121	4,432	94	3,766	62	81.8	3月より山形・長野産、4月から山梨産ハウスおうとうの出荷が始まっており、5月も引き続きハウス物主体の出回りとなる。気温が高く推移したため、出始めから増量ペースは速く、「母の日」前後にもしっかりと量がまとまる見込み。4月下旬から化粧箱を中心に販売苦戦もみられるが、連休前後からは動きも活発化する見込み。
すいか類	5,920	104	6,225	300	98	255	0	0.0	熊本、千葉、茨城産が中心となる。熊本産は4月下旬に連日出荷となっており、地震の被害を心配する声もあったが、5月になればほとんど影響なく潤沢な出回りが見込まれる。中旬からは千葉産も始まり、6月にかけて本格出荷となる。消費地の気温上昇につれて引き合いは強まり、5月は月通じて安定した価格推移が見込まれる。
メロン類	2,958	122	3,543	600	84	491	1	0.0	茨城、熊本、静岡産が中心となる。年明けの低温で若干熊本産で出遅れはあったが、その後好天で4月中旬以降順調な入荷となっている。茨城産は生育前進気味で、例年より早めのピークとなることから、5月の出回り量は前年を大きく上回る見込み。熊本産では地震による入荷への影響は5月にはほとんど見られず、初夏にかけて主力商材として存在感強める予想。
マンゴー	105	105	112	3,839	83	3,322	-	0.0	宮城県産が殆んどを占める。2、3月の好天で、糖度高く色上がりについても文句のない仕上がりになっている。増量ペースも早く、4月上中旬にかけての出荷量は前年を大きく上回ったことで価格の下げも早かったが、売り場は確保されており、徐々に売れ行きも良くなっている。「母の日」ギフト商材として定番化しており、5月は安定した価格推移が見込まれる。